

# 刺激しつづけ、 改善マインドを育てる改善活動

イワミ村田製作所

鳥根県大田市。世界遺産に指定された石見銀山のすぐそばに、イワミ村田製作所がある。

工場の敷地に入るとまず目に飛び込んでくるのが、水車小屋である。その回りは綺麗に作り込まれたビオトープになっており、メダカやフナが泳ぐ。「水車は地元の製麺所で使われなくなったものを引き取り、社員がメンテナンスをして復元しています。ビオトープも社員たちが管理しています」と業務課の山崎貴民課長は自慢げに話してくれた。自分たちで工場を綺麗に保つ意識がしっかり根付

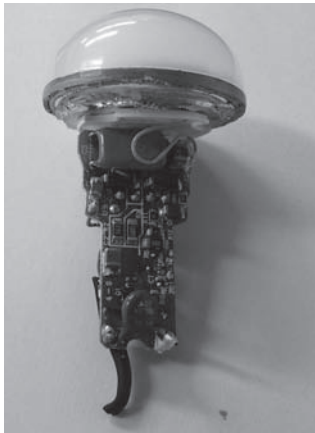
いていることを伺わせた。

## 休みなく続く「ものづくり研究会」

同社は主にコンデンサなどの電子部品を加工、また関係会社から入ってきたコンデンサを包装、出荷している。製品はLED電球や自動車部品として使用されている。近年では新製品開発にも力を入れており、高温にも耐えるものや樹脂カバーを使用しないものなどがある。改善活動に取組み始めたのは2008年。工場長とメンバー数名はNECアクセステクニカの工場を見学し、現場主体で行うTPS活動に強い衝撃を受けたという。そして2008年9月に組織風土改革とモノづくり改革を目指し、「ものづくり研究会活動」を開始した。

ものづくり研究会は現場作業員から間接部門、管理職まで7、8人を1チームとして5、6チームがあり、毎月1回8時間で改善をして成果発表会を行うものである。改善テーマは現場から挙が

LED電球の中に組み込まれた製品



## 会社概要

会社名：(株)イワミ村田製作所  
所在地：〒694-0064  
鳥根県大田市大田町大田イ795-1  
生産開始：1965年  
従業員数：339名  
事業内容：セラミックをベースとした電子部品（積層コンデンサ、ノイズ対策製品）の製造

正部 昭雄工場長



包装ラインでは、段取り替え時間の短縮などの改善で1人8台持ちから12台持ちになった



ることもあるが、最近ではムダを見つける目を養うために現場で改善対象となるラインを観察して問題を見つけるようにしているという。正部昭雄工場長はこう話す。「仕事時間内にやることで生産数も落ちますが、改善は仕事そのものだと認識してもらうために、あえて時間内に行っています。40回一度も休みなく毎月続いていることも、改善を大切にしている証拠となっていますね。役員、現場作業員関係なく、全員参加を強く意識しています」。本気で改善に取り組むという会社の方針が従業員に浸透しているからこそ、着実に40回の活動を続けてきたのだろう。

ものづくり研究会やプロジェクトなど活動の履歴が張り出されている



従来の2分の1の面積で2倍の容量がある台車をイレクターで製作、かなり好評だという



### 女性がカギとなり改善を進める

また、ものづくり研究会とは別に生産革新のプロジェクト活動も行っている。「RPE」という製品の製造ラインを「高品位ライン」に位置づけ、組織横断で専門チームをつくった。メンバーで3年後にどのようなラインにしたいかの理想案を出し合い、それに向けて改善活動に取り組んでいる。これによりリードタイムが4日かかっていた製品を1.5日に短縮するなど、少しずつ効果が現れ始めてきた。

同社の改善活動の中で光るのが、女性の存在だ。今年にはPEC産業教育センターの主催する女子リー

レイアウト変更、仕掛品削減などで廊下がすっきり

